



未来社会の課題に挑む、 新たな知の創造拠点

現代社会は、気候変動、貧富の格差、地域社会の衰退など、複雑に絡み合うグローバルな課題に直面しています。これらの問題は、従来の学問分野の枠組みを超え、多様な視点と協働による解決策を必要としています。しかし、既存の大学教育では、専門分野の深化に重点が置かれがちで、複雑な社会問題を多角的に捉え、実践的な解決策を生み出す人材育成は十分とは言えません。

まさにこの現状を打破するため、静岡大学グローバル共創科学部は誕生しました。単なる専門知識の習得にとどまらず、社会課題解決に主体的に取り組む「共創型人材」の育成こそが、本学部の設立理念です。私たちは、既存の教育システムの限界を認識し、未来社会の創造に貢献できる人材育成を目指した、全く新しい教育プログラムを構築しました。

本学部の独自性：3つの柱

本学部の教育は、以下の3つの柱によって支えられています。

- 1. 文理融合による多角的視点の涵養**: 自然科学、人文社会科学、情報科学など、従来は分断されていた学問分野の垣根を越えたカリキュラムを展開。社会問題を多角的に分析し、複雑な問題の本質を見抜く力を養います。基礎的な知識を土台に、社会課題解決に直結する専門知識を習得することで、既存の枠にとられない独創的な解決策を生み出す力を育みます。
- 2. 実践的学びを通じた問題解決能力の向上**: 地域社会や国際社会でのフィールドワーク、短期・長期の海外留学プログラムなどを積極的に

導入。教室の中にとどまらず、現実世界の課題に直接向き合い、多様な人々と協働しながら解決策を探求する経験を通して、実践的な問題解決能力、コミュニケーション能力、そしてグローバルな視点を養います。
3. データサイエンスに基づく客観的分析能力の育成: データ分析スキルを習得し、社会問題を客観的に分析する能力を養います。エビデンスに基づいた政策立案や意思決定能力を身につけ、データに基づいた効果的な解決策を提案できる人材育成を目指します。

未来を担う人材育成への取り組み

本学部の教員陣は、それぞれの専門分野で高い知見を持つ、経験豊富な研究者・教育者で構成されています。学生一人ひとりの成長を丁寧にサポートし、多様な視点からの指導によって、潜在能力を最大限に引き出します。学生が自身の可能性を広げ、何をしたいのか、何ができるのかを発見していくことを重視し、様々な人々との出会いと交流を通して、主体的に未来を創造できる人材育成を目指しています。
 静岡大学グローバル共創科学部は、単なる知識の伝達機関ではなく、未来社会の課題解決に貢献できる人材を育成する、新たな知の創造拠点です。私たちと共に、未来社会を創造していきましょう。

グローバル共創科学部長 江口 昌克

学びのポイント

Learning Points

- 1** 地域国際連携、ゼロカーボン社会、人間科学を中心とし、幅広いリベラルアーツを身につける
- 2** 国際的かつデジタル社会におけるコミュニケーション能力を身につける
- 3** 多様性を尊重し、他者との協働による課題解決力を身につける

特色あるカリキュラム

Curriculum

学部共通科目として、1年次から基礎科目(グローバル系科目、データサイエンス系科目、共創科学系科目)を配置し、基礎的素養と共に多様な人と協働できる力を身に付けます。また、人文・社会科学系科目、自然科学系科目で複眼的な視点から対象を捉える力を身に付けます。その上で、3年次よりそれぞれの学生が専門分野(コース)を選択し、コース専門科目や卒業研究によって、各コースの専門を学び、知識の深度を増し、「総合知」を生かして複数の専門をつなげるプロジェクトを実施します。

グローバル系科目	Oral Communication、English Presentation、ファンリレーション概論、海外研修プログラム(全学生に履修を推奨)、コラボラティブ・ワークス(フィールドワーク) など
データサイエンス系科目	データサイエンス演習、AI基礎、共創科学調査法 など
共創科学系科目	国際地域社会とダイバーシティ、バイオエコノミー概論、総合人間科学概論、コミュニティ基礎論 など
人文・社会科学系科目	人間の尊厳と人権、現代社会の認知科学、アート・デザインコミュニケーション など
自然科学系科目	スポーツ・健康科学、暮らしの科学、防災・減災論、カーボンニュートラル科学 など

教養科目	単位数	1年次		2年次		3年次		4年次			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
大学での学びやキャリアパスなどの知識を身に付けるとともに、多様性への理解を深める	9	11	→								
学部共通科目	グローバル系科目	10	6	→							
	データサイエンス系科目	10	2	→							
	共創科学系科目	10		→							
人文・社会科学系科目	人文・社会科学系科目	6	8	→							
	自然科学系科目	4	8	→							
	卒業研究	6		→							
コース専門科目	26		→								
上記の科目群から履修する科目		8	→								

1. コラボラティブ・ワークス

他者と協働し、知をつなぐ方法を
実践的に身につける



本授業は、現実の社会的課題に取り組む上で必要とされる「①参与、②発見、③探求、④解決のプロセス」を現場のステークホルダーとの協働を通して学ぶことにより、持続可能な未来づくりの担い手(共創型人材)となるための力を養うことを目的としています。学生は、「移民が生きる街と『ともに生きる』活動」「地域の共有資源としての森林の保全と持続可能な利用」「デジタル社会における高齢者の居場所づくり」「共創科学的スポーツへのいざない」など10あまりの幅広いテーマから自らテーマを選択し、専門知とフィールドの往復を通じて課題に取り組みます。



3. 海外研修プログラム I

海外での経験と学びから
人間理解を深めるスキルを得る



現地海外研修またはオンライン海外研修に参加し、主に英語によるコミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めて国際感覚を身につけます。現地の大学や語学学校等で語学研修を受けたり、現地で開催される様々なアクティビティに参加したり、現地の学生や地元の人たちと交流します。オンライン研修でも、語学に加え調査学習やディスカッションを通じ、英語による意見交換や発表を实践します。これらの活動を通じ、実践的な語学力を養い、国際的な人材になることを目指します。研修終了後はその成果をまとめ、学内で発表します。



2. データサイエンス演習

コンピュータを用いて
データから価値を生み出す技術を学ぶ



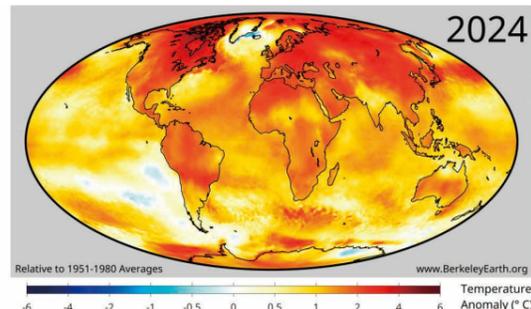
これからの社会において、データはあらゆる分野で生み出されるようになります。しかし、データはただ持っているだけでは役に立ちませんし、誤った使い方をすると期待されるような成果が得られません。本講義ではコンピュータを用い、演習形式でデータの分析を实践することにより、その手法を習得します。本学部のカリキュラムには「データサイエンス演習」を含め、6つのデータサイエンスに関わる必修科目群があり、文部科学省数理解・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の「応用基礎レベル」の認定を受けています。



4. カーボンニュートラル科学

脱炭素社会実現のための
科学、技術、政策を総合的に学ぶ

数人の教員がリレー方式で授業を担当することにより、地球温暖化の科学(現状・将来予測・被害)から、二酸化炭素等の排出を削減しカーボンニュートラル(脱炭素)社会を構築するための様々なテクノロジー、そしてそれらを社会実装していくために必要な政策・措置までを総合的に学ぶことができます。また、補助教材(動画)により、担当教員以外の本学教員による最新のカーボンニュートラル研究についても知ることができます。



コース紹介

Three Courses

本学部は、学問領域の分野の垣根を越えた多様な知の交流を促すことを重視しており、学問分野・専門分野の垣根を取り払った、1学部1学科3コース制をとっています。これらの3つのコースは独立しているのではなく、3コースが相互に協働することにより、「総合知」による未来の課題の解決を目指します。 ※学生は3年次よりコースへ分属。

国際地域共生学 コース

現代に生きる人々が、
より創造的かつ友好的に暮らすための課題

コースが目指すもの

- 国際化する地域社会に適した人権、法、社会保障の探求・構築
- 多様な人々が暮らす地域社会での包摂的な生活環境や災害への対応の検討
- 芸術・文化を通じた人と社会の創造的な協働の場の創出

カリキュラムの特徴

社会学・文化人類学・法学・芸術文化・建築学などを基礎に幅広く学ぶ

言語にとどまらない幅広いコミュニケーション・スキルを修得する

国際社会と地域社会を通底する社会課題を考察し、解決を構想する思考力を養う

卒業後の進路の例

- 異なる文化背景を持つ海外の企業や政府などと協働して事業を実施できる企画・営業職
- 共生社会の拠点形成を担う福祉・教育団体の総合職
- 地域の魅力の創出・発信に専門性を発揮する行政職員

生命圏循環共生学 コース

新たな価値を創出し、
持続可能な循環型社会を実現するための課題

コースが目指すもの

- 再生可能エネルギー、持続的な食料や材料生産などの技術開発と社会実装
- 気候変動により激甚化する災害への対応
- 社会の新しい価値と仕組みの創生

カリキュラムの特徴

エネルギー、食料、生物材料、社会インフラ、生態系等の循環・再生についての最先端の技術と人間社会の仕組みを理解する

物理学・化学・生物学・法学・経済学・社会学を中心とした基礎を幅広く学ぶ

地球(生命圏)と人間社会が共生するための課題設定&課題解決能力を養う

卒業後の進路の例

- グリーンエコノミーに精通する企業の国際戦略を担うマネージャーや官庁職員
- 防災対策を専門とする環境・建設コンサルタントや自治体職員
- 企業等工場の生産工程における品質管理、環境マネジメントを行う職員

総合人間科学 コース

人間とはどうあるべきかを問い続け、
真の豊かさを主体的に実現するための課題

コースが目指すもの

- 人間の総合的理解を通じた、新たなウェルビーイングの探求
- 人・自然をめぐる地域課題の解決を通じた共生社会の実現
- 先端科学技術の発展と調和した人間社会の検討

カリキュラムの特徴

スポーツ科学・心理学・法学・倫理学など、ウェル・ビーイングに関わる多様な学問を専門的・包括的に学ぶ

人・自然との共生をマネジメントできる実践力を育成する

Society5.0を見据えた情報科学教育

卒業後の進路の例

- プロスポーツ団体(スポーツ協会)の職員、地方自治体のスポーツ振興を所管する部署の職員
- 地方公共団体におけるデジタル振興や地域振興を所管する部署の職員
- IT企業で人間中心のサービス・製品の開発に関わる企画職

教員紹介

グローバル共創科学の様々な知識・専門分野を持つ教員を紹介します。

Faculty Introduction

教員の研究・授業を
さらに詳しく▶



池田 恵子
Ikeda Keiko

国際地域共生学コース

- 災害社会学
- ジェンダー研究
- 南アジア地域研究

インクルーシブな視点で災害に強い地域づくりを!

日本とバングラデシュを中心とした南アジアの国々を対象に、頻発する自然災害への対応・適応の観点から暮らしや社会組織・規範のあり方を研究しています。社会や個人の災害への強さや弱さは、地域開発や社会政策の展開によってどう変わるのか? 住民参加型の地域防災事業の有効性とは? 性別や立場によって異なる被災のニーズに対応するために必要な体制とは? フィールドワークを通して、これらの疑問に取り組んでいます。



石川 宏之
Ishikawa Hiroyuki

国際地域共生学コース

- 建築計画
- 都市計画
- 地域施設計画

地方都市中心市街地を活性化するエリアマネジメント

今日、人口減少時代の市街地形成の概念としてコンパクトシティへの転換が求められています。中心市街地における低未利用地の再編・マネジメント手法、都市機能を誘導する地区のあり方、地域遺産を活用した都市再生手法など、計画技術に関することを研究しています。また、授業「都市計画論」では、近代都市計画から現在の都市計画を踏まえて個別の建築物がどのように計画され、建設されているか都市計画上の方法を講義しています。



朱 暉
Zhu Ye

国際地域共生学コース

- 民法
- AIと法
- 高齢者支援方策

ぜひ広く、深く思考する習慣を身につけましょう!

研究生活をスタートして以来、民法を中心に比較研究を行っています。各方面のご支援をいただきながら、シンポジウムやセミナーなどの開催を企画し、国際的、学際的な交流を深めることに務めています。最近では、AIと法やパーソナルデータの活用について研究活動を展開しています。また、令和4年8月よりICT介護の先駆者であるインフィック社との共同研究をスタートし、AI時代に相応しい高齢者支援策を模索しています。



立花 由美子
Tachibana Yumiko

国際地域共生学コース

- 博物館学
- アートマネジメント
- キュレーション

ミュージアムはだれのものか

日本の美術館固有の「市民」像に研究の関心を置いています。「○○の国のお国柄」といわれるように、各国の市民像はそれぞれ異なっており、これに伴い各国の博物館もそれぞれの市民像から議論を始めるべきと考えるからです。美術館の向き合うべき市民は、なにも美術館に来てくれる人ばかりではなく、まだ美術館に行ったことがない人も含まれています。そうしたあらゆる市民の生の声から、日本の美術館像を考えています。



太田 美帆
Ota Miho

国際地域共生学コース

- 社会学
- スウェーデン福祉国家制度と市民社会

グローバル時代の社会保障と人々の暮らし

スウェーデンを対象に、(1) 過疎地域の地域活性化、(2) EU政策が過疎地域での取り組みや行政活動に及ぼす影響、(3) 移民・難民など国外生まれの人々が增える中で労働市場や福祉国家制度がどのように変化しているのかを研究しています。それらを通して、グローバル化が進む中で人々が協力してより幸福な生活を送るためには何が必要か、またそれを支える公正で持続可能な社会的制度とはどのようなものなのかを考えています。



川崎 和也
Kawasaki Kazuya

国際地域共生学コース

- 文化人類学
- オーストラリア先住民研究

グローバルな時代を生きる先住民・少数民族のいま

オーストラリアには、アボリジニと呼ばれる先住民の人々が暮らしています。18世紀の後半以来、彼らの社会や文化、生活はめまぐるしく変化を遂げしてきました。近年では、交通・情報通信技術の発達もめざましく、人・モノ・情報の移動はますます活発となっています。このような状況下に生きるアボリジニの社会や文化、生活の動態について、文化人類学の視点から研究しています。



チョ Chol 明子
Chochoi Akiko

国際地域共生学コース

- 海外研修
- ミクロネシア連邦における日本語教育・英語教育

現地のニーズや学習者の背景文化を考慮した言語教育

みなさんはミクロネシア連邦を知っていますか。私はミクロネシア連邦のヤップ島とポンペイ島の教育機関で日本語教師を務めました。そこで、現地のことばや文化を尊重した英語教育について考えさせられました。現在は言語教育の観点から、教育実践を記述したり学習者の声を聴いたりして、現地のニーズや学習者の背景文化に沿った教材や教授法について研究しています。



坪井 秀次
Tsuboi Shuji

国際地域共生学コース

- 経営学
- イノベーション学
- 行政学

常識を超えて! イノベーションを特別から標準に

不安定なVUCA時代では、複雑化する経営課題を1つの分野や常識の範囲で解決するには限界があります。他分野と新たな結合を起こしてマーケティングや戦略を駆使し、マネジメントをしていく必要があるのです。すべての人がイノベーションを起こせる社会を目指してイノベーションを特別から標準にするために、組織イノベーション、イノベーターの人材育成、マーケティング戦略、マネジメントサイクルなどの研究を進めています。



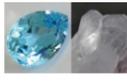
Darius C. Greenidge
グレニジ ダリウス

国際地域共生学コース

- 科学と技術
- 芸術
- 英米文学

科学と技術・芸術・歴史・英米文学

本研究は理系のみならず、社会と芸術にも及びます。鉱物と電磁波の世界の深みに迫る研究が中心ですが、エネルギー対策と自然とのバランスの視野を世界に持たせます。元素のレベルから膨大な宇宙と生命の源、その関係性を調べ、より明るい未来の可能性を解明して行きます。そこで、水素燃料開発の未来を強調しています。より平和な世界が現れるように、様々な研究分野を繋いで若い人たちが自分の道を切り拓くために支援しています。



定松 文
Sadamatsu Aya

国際地域共生学コース

- 国際社会学
- ジェンダー研究

日本の移民をジェンダー視点から考える国際社会学

日本に来る、在住している移民女性、特に家事・介護の仕事をしている移民女性たちの移動の制度と実態、社会的課題をジェンダーの視点から研究しています。1980年代から国際移民の半数は女性になり、日本もその傾向がありますが、他の受け入れ諸国とどのような違いがあるのか、なぜ違うのか、さらになぜ家事・介護分野に集中しているのか、問題点は何かなど、移民の出身国、仲介する多様なアクター、支援団体、そして移民女性への聞き取り調査から明らかにしようと試みています。



Michael K. Peters
ピーターズ マイケル

国際地域共生学コース

- 文化人類学

スポーツ選手移住: 文化探求

スポーツ・アスリート(男女)が国から国へと移動する軌跡に注目する事により、特定の国出身の特定の個人アスリートにとって移住が何を意味しているのかだけでなく、より良い生活への希望を抱く母国の他の多くの人々にとって、それが何を意味するかを知ることができます。アスリート個人の移住経験を知る事により、アスリートが移動する国だけでなく、彼、彼女の本国、つまり二つの国の文化について理解を深めることもできます。



松澤 祐介
Yuusuke Matsuzawa

国際地域共生学コース

- 国際経済学
- 金融論
- 経済政策

経済を通じたヨーロッパ地域研究

国境変更、社会主義化と冷戦、連邦解体・分離独立など国際情勢に翻弄されてきた小国の生存戦略への関心から、中東欧諸国を主たる対象として経済の観点からヨーロッパを分析しています。経済統合を進めてきたEUへの加盟、共通通貨ユーロの導入/未導入、金融市場統合の成果、市場統合での国境を超える人・モノの往来を支える交通、特に鉄道経営の改革を中心に、我が国の金融政策や交通政策との比較も念頭に置いた研究をしています。





山本 好比古
Yamamoto Yoshihiko

国際地域共生学コース

- 社会言語学
- 応用言語学
- スポーツ社会学

留学担当教員です

私は日本の大学では教育を受けていません。学士課程はニュージーランドの大学で、修士・博士課程はオーストラリアの大学で教育を受けました。語学留学も経験していますが、大学・大学院での留学はとにかく勉強が大変でしたが、この時の経験は私の人生にとってかけがいのない大切な物として残っています。皆さんも若いうちにぜひ海外に出て色々な経験を積んでください。



Steve Redford
レッドフォード スティーヴ

国際地域共生学コース

- アメリカ文学・文化

小説を読んで成長しましょう！

アメリカのGeorgia州の出身で、1989年から日本に住んでいます。小説を書くこと、ハイキング、山登り、絵をかくこと、野菜を作ることなどが好きです。TeachingよりHelping students learnのほうが大事だと思って授業をしています。



小池 亨
Koike Toru

生命圏循環共生学コース

- 発生生物学
- 遺伝子工学
- 細胞生物学

動物の発生と組織形成・器官再生機構

動物の「発生」と「再生」は、古くから多くの人を魅了し続けている生命現象です。私の研究室では、棘皮動物に属するナマコや刺胞動物に属するクラゲといった、海洋生物を主に用いて、動物の発生や組織形成・器官再生の仕組みについて研究しています。特に組織構築の過程における細胞増殖・分化の制御や、細胞同士のコミュニケーションに関わる分子機構の解明を試みています。再生医療にも繋がるような基礎研究を目指しています。



斉藤 俊貴
Saito Toshiki

生命圏循環共生学コース

- 天文学
- 宇宙物理学
- データ駆動天文学

銀河の成り立ちと進化、物質の進化

私たちの住む地球は太陽系にあり、その太陽系は天の川銀河の中に存在しています。銀河はいつどのように誕生し、138億年をかけてどうやって今現在の多様な色や形などの個性を獲得してきたのかに興味を持ち、「銀河形成・進化」「銀河とブラックホールの共進化」などをテーマに研究を進めています。近年は、観測技術の発展によりデータ量も膨大になるつつあるため、データサイエンスの天文学への応用にも取り組んでいます。



青木 憲治
Aoki Kenji

生命圏循環共生学コース

- 複合材料科学
- 高分子化学
- 界面化学

セルロース系複合材料でカーボンニュートラルに貢献

植物の構成主成分であるセルロースとプラスチックとを混ぜ合わせた「セルロース/樹脂複合材料」の開発を行っています。植物は燃やしても光合成で固定した炭素がCO2にもどるだけなので、大気中のCO2濃度を上昇させないカーボンニュートラルな材料です。セルロースを活用することで脱プラスチックに貢献できます。セルロース/樹脂複合材料を自動車、家電などに社会実装させ、材料分野で未来の当たり前を創るのが私のミッションです。



板倉 美奈子
Itakura Minako

生命圏循環共生学コース

- 国際法
- 環境法
- 環境政策

<公正><人権>という視点で環境問題に取り組む！

専門は国際法、とくに国際環境法・国際経済法です。環境と経済の両立、自然資源の保全と持続可能な利用のあり方、環境と人権・社会的公正といったテーマで研究を進めています。専門ゼミでは、カーボンニュートラル社会、バイオエコノミー社会、循環型社会、ネイチャーポジティブの実現に向けた学びをめざしています。大学での研究・教育にとどまらず、地域のさまざまな人びとと共創しながら、環境問題の公正な解決のために取り組んでいきたいと考えています。



崔 宰熏
Choi Jae-Hoon

生命圏循環共生学コース

- 天然物化学・生物化学

“おもしろい”がすべての出発点である

崔宰熏です。天然物化学を専門とし、菌類と植物の共生や代謝メカニズムを分子レベルで研究しています。フェアリー化合物を発見し、新たな植物ホルモンとしての可能性に挑戦中です。教育では分析化学などを担当し、研究室は学会やイベント、留学生との交流も盛んです。“おもしろい”を原動力に、毎年のBBQでは私が肉を焼きながら、楽しく学べる環境づくりを大切にしています。



平井 浩文
Hirai Hirofumi

生命圏循環共生学コース

- 環境生物化学
- 環境微生物学
- バイオマス利用化学

キノコで未来の地球環境を守る！

現在の地球環境は地球温暖化や環境汚染などの問題を抱えています。これらの問題を解決すべく、キノコの仲間である白色腐朽菌のユニークな能力を活用して、木材を原料としたバイオ燃料(水素・エタノール)や生分解性バイオプラスチック原料を生産する研究(バイオリファイナリー)や、難分解性環境汚染物質(農薬、環境ホルモン、医薬品など)の分解・無毒化に関する研究(バイオレメディエーション)を行っています。



小野 晶子
Ono Akiko

生命圏循環共生学コース

- 応用微生物学
- 分子生物学

分子育種で拓く菌類の可能性

大型の子実体(いわゆるキノコ)を形成する菌類を対象に、分子生物学・生化学的研究を行っています。現在名前が付いているキノコは、地球上に存在すると推定される種の1割未満に過ぎず、未発見の多さから研究資源の宝庫といえます。私は、キノコのユニークな性質を探索し、次世代シーケンシングによる遺伝子解析や、遺伝子組換え・ゲノム編集技術を用いて、環境問題の解決に貢献できるキノコの作出を目指しています。



金 キョンミン
Kim Kyeongmin

生命圏循環共生学コース

- 水環境工学
- 電気化学
- 環境微生物学

微生物で切り拓く水の環境とエネルギー

私は、「学びの楽しさ」を実感してもらうことを第一に、学生の悩みに寄り添い、リラックスして学べる雰囲気づくりを大切にしています。研究においては、微生物の力で水を浄化しながら同時に電気を生み出す「微生物燃料電池」技術の実用化に取り組んでいます。これは物理・化学・微生物学が融合した技術であり、グローバル共創科学部で学ぶ多様な基礎知識が、どのように最先端技術に応用されるかを実感できる分野です。



堀池 徳祐
Horiike Tokumasa

生命圏循環共生学コース

- 分子進化学
- ゲノム科学
- 情報生物学

生物の多様化メカニズムを分子レベルで明らかにする

近年、様々な生物の遺伝子配列情報が利用できるようになってきました。当研究室では、大量遺伝子情報を活用し、情報解析によって生物の進化系統や多様化メカニズムを明らかにする研究を行っています。例えばハエトリソウ、フクロユキノシタという独立に食虫植物になった2種では、それぞれの祖先において複数の食虫に関連する機能を持つタンパク質が協調的に収斂進化し、食虫植物に進化したことが明らかになりました。



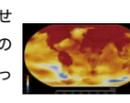
水谷 洋一
Mizutani Yoichi

生命圏循環共生学コース

- 環境経済学
- 環境政策

カーボンニュートラルの経済学

環境問題の原因は人間の経済活動です。ですので、経済活動のあり方を変えなければ、その解決はできません。また、研究開発された様々な対策技術を実際に社会の中に組み込んでいく過程では、それを促進するような経済や社会の仕組みとセットで考えなければうまくいきません。私は、地球温暖化(気候危機)をめぐる、その対策のためにどのように経済や社会の仕組みやルールをつくらなければならないかを経済学の立場から研究しています。

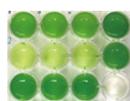




村上 博紀
Murakami Hiroki
生命圏循環共生学コース
● 植物・藻類分子生理学

微細藻類で持続可能な未来を創る

微細藻類を活用したバイオマス生産は、脱炭素社会の実現に貢献することが期待されますが、製造コストの高さが課題であり、実用化には多方面での技術革新が不可欠です。本研究室では、物質生産能の優れた微細藻類を研究材料として、生体内における有用物質の生産機構の解明を目指します。得られた基礎的な知見に基づき、代謝工学により物質生産能を改変した「スマートセル」を創出し、脱炭素社会の実現に貢献することを目指します。



祝原 豊
Iwaihara Yutaka
総合人間科学コース
● 健康体力学
● スポーツ科学
● バスケットボール

健康づくりや競技力に関わる体力学 子どもの運動あそび

主に健康の維持増進を目的とした様々な運動が、身体へ及ぼす影響を運動生理学的側面から検証を重ねています。テーマとしては、競技者を含む様々な対象の各ステージや目的に応じた、より効果的で安全な運動実践の提示と、体力レベルに捉われないユニバーサルスポーツの検討があります。また、子どもの基本的動作を含む体力や運動遊びの環境に関する課題についても、地域での活動を通して探求と発信をしています。



平嶋 裕輔
Hirashima Yusuke
総合人間科学コース
● サッカー
● コーチング学
● ゲームパフォーマンス分析

大学から「サッカー王国静岡」を盛り上げる

主にサッカーを題材として研究を行っています。実際に自分が指導者として現場へ立ち、そこで感じた疑問や抽出した課題を、科学的な手法によって分析し、再度現場へフィードバックするという取り組みをしています。特に興味をもって取り組んでいるのは、試合や練習の映像から量的なデータを抽出し、そのデータを統計的な手法によって分析する、「ゲームパフォーマンス分析」手法を用いた研究です。



正木 祐史
Masaki Yushi
総合人間科学コース
● 少年法
● 刑事訴訟法
● 刑事政策

刑事政策の意義と拡がり～よりよい社会の構築への道筋

刑事手続の渦中にある人や立ち直りのたどるなかにある人に対して、法や司法ができることは色々あるけれど、法や司法だけでその人の抱える課題を全て解決できるとは限らない。教育や心理、福祉や医療、行政も民間セクターも個人も含め、様々な専門家や市民が、適切なコーディネートを得て、その人のよりよい人生への足掛かりとなる、その営みが総体としてよりよい社会の構築につながっていく。そんなことを目指して研究をしています。



江口 昌克
Eguchi Masakatsu
総合人間科学コース
● 臨床心理学・コミュニティ心理学

心と社会をつなぐ心理・福祉臨床アプローチ

コミュニティ臨床心理学の視点から、虐待、不登校、ひきこもり、非行など、多様な心理社会的課題の解決に取り組んでいます。家族、学校、地域社会など関係するシステム全体の力動性を考慮したシステムズアプローチを用い、長期的な傷つきからの回復過程を分析。家族レジリエンスの促進や、社会的処方への有効性に関する研究を進めています。特にコミュニケーションの連続性に着目し、個人の回復と社会の持続可能性に貢献する実践的な研究を展開しています。



杉山 康司
Sugiyama Koji
総合人間科学コース
● スポーツ健康科学
● 運動生理学
● アウトドアスポーツ

トライ&エラー やらないの？やってみよう！

運動生理学はスポーツ/運動の効果について生体の応答や適応を探りながらヒトが本来持つ能力について解明していく学問です。例えば、2本のストックを歩行用に改良したノルディックウォーキングの運動強度や筋活動の特徴について明らかにした研究は杉山研究室の代表的な成果の一つです。とにかく、スポーツや運動の謎について実験をやってみる研究室です。スポーツ・ウエルビーイングに貢献する実験に挑みます。



満下 健太
Mitsushita Kenta
総合人間科学コース
● 認知心理学
● リスク学
● 学校安全

見えないリスクは人にどう映るのか？

危険が生じる可能性(リスク)を人がどのように評価・判断し、態度形成するか(リスク認知)を、認知心理学や社会心理学に関連して研究しています。広く言えば、人の思考・判断・意思決定のプロセスに興味があり、調査や実験などから検討しています。また、特に学校場面を中心として、どのようなリスクがあるのか、そうしたリスクを個人や社会が適切な程度で受け入れるためにはどのような対応が必要なのかについて考えています。



村田 真一
Murata Shinichi
総合人間科学コース
● スポーツ経営学
● スポーツ政策学
● ハンドボール

暮らしを支えるスポーツマネジメント

私たちのスポーツ生活(する、観る等)の背景には、必ずと言っていいほどマネジメントの働きがあることに気付いていますか？その実例として、スポーツクラブの育成や施設・スポーツイベントの提供、スポーツメディアの存在等があります。私が専門とするスポーツ経営学では、スポーツ生活がマネジメントによって支えられていることの社会的意義やその効果について、法律や政策、または倫理問題と絡めながら検証していきます。



須藤 智
Suto Satoru
総合人間科学コース
● 認知心理学
● 認知工学・科学
● 高齢者心理学

誰にとっても使いやすい道具のデザイン原理と人間の心の仕組みの解明

「認知工学」と「認知心理学」の考え方や方法を使って、人間が日常的に利用する道具(モノ・サービス)の使いやすさに関する研究と人間の認知過程、認知機能の特性を解明する研究をしています。近年は、(1)道具のユーザビリティの向上と利用学習の支援に関する研究、(2)ロボットなど新しい道具についての高齢者にとっての使いやすさの研究、(3)人間の記憶や注意、認知的加齢に関する基礎研究、(4)地域の高齢者の皆さんと一緒に使いやすい道具を共創するリビング・ラボの研究活動を行っています。



堂園 俊彦
Dozono Toshihiko
総合人間科学コース
● 哲学・倫理学

人の尊厳と両立可能な医療・研究のあり方を考える

医療や医学研究において生じる倫理的課題を扱う生命倫理学や医療倫理学を専門にしています。これらの領域では、患者の求めに応じて致死薬を投与してよいのか、新たな技術による生殖をどこまで認めるべきかなど、困難な問題が生じています。本研究室では、人の尊厳の保障を柱に、丁寧な対話を大切にしながら、これらの問題にどのように答えるのか、問題に直面する現場の方たちをどのように支えればよいのかを検討しています。



吉川 真理
Yoshikawa Mari
総合人間科学コース
● 刑法

縁とは不思議なものです

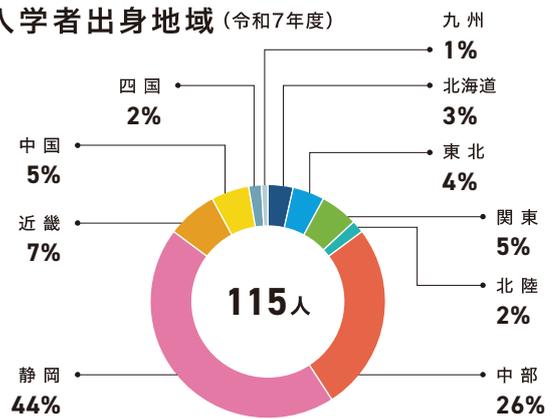
大学時代「萩風会」という司法試験合格をめざしたサークルに入ったことが、刑法に興味を抱ききっかけとなりました。私自身は法曹とはなりませんが、先日、弁護士となったOBと40年ぶりに再会しました。縁とは不思議なものです。



入試データ (令和7年度)

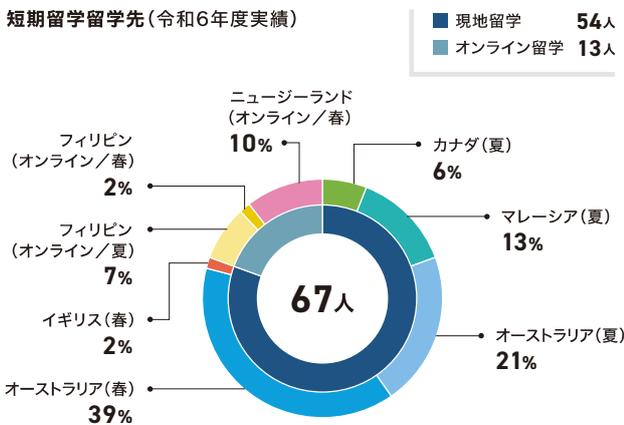
		募集人数	志願者	受験者	合格者
総合型	全学科枠	20	38	38	22
	専門学科及び総合学科枠	8	11	11	7
	社会人枠	若干名	0	0	0
学校推薦型		20	27	27	20
一般選抜(前期)		47	119	100	52
一般選抜(後期)		20	152	47	22

入学者出身地域 (令和7年度)

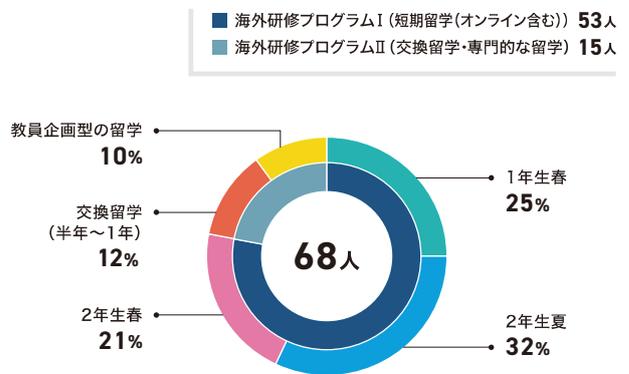


海外留学の実績について

短期留学留学先 (令和6年度実績)



グローバル共創科学部1期生(115人)留学形態(延べ数)



入学者選抜の情報

選抜方法の概要は、静岡大学の学部入試ウェブサイトに掲載されている「入学者選抜に関する要項」や各選抜の募集要項に記載しています。



3つの方針(ポリシー)

グローバル共創科学部の3つの方針(ポリシー)は右記のウェブサイトに掲載しています。

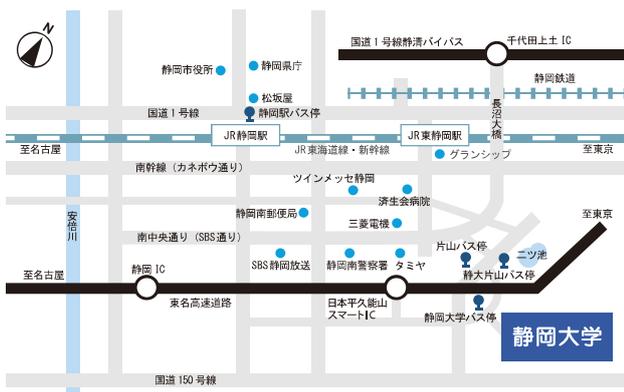


令和9年度入試における 主な変更点について



- ① 一般選抜(前期日程)
文系教科型・理系教科型に分けて募集します。
- ② 総合型選抜(全学科枠)
取り組んだ各種活動のタイプをスポーツ重点型、研究・技術活動重点型、国際・地域活動重点型の3つに分けて募集します。
- ③ 総合型選抜
英語力試験の級位やスコアによって加点します。

※令和9年4月入学希望者向けのご案内です



交通機関: JR静岡駅北口のしずてつジャストラインバス8B番のりば「静岡大学」or「東大谷」or「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行きに乗車し、「静岡大学」or「片山」下車(所要時間約25分)



最新の情報については、本学部ウェブサイトにて公表します。

<https://www.gkk.shizuoka.ac.jp>

